

公立大学法人福知山公立大学令和元年度及び中期目標評価(4年終了時)に係る
業務実績報告書への質問票(年度計画)

番号	年度計画番号	質問事項	回答
15	1	・科目ナンバリングの付番コード体系(ルール)があれば教えてほしい。 ・併せて学生への周知方法等についても教えてほしい。 ※Webページを探しましたが発見できませんでした。	・コード体系の付番ルールは、別添資料のとおり。 ・2020年度から学生は全てのシラバスを本学ホームページ及び教学情報システムで閲覧することができる。(シラバスURL) https://www.fukuchiyama.ac.jp/faculty/syllabus/ ・科目ナンバリングは、ガイダンス時に説明資料を配付して周知している。
4	1・8	年度計画どおりの実績に読み取れるのだが、100%達成できたから4であるのか、それとも計画以上に達成した実績があるのか。100%を超えていると判断されている場合は、その内容を教えて頂きたい。	(年度計画番号1) ・両学部におけるカリキュラムツリーの作成、シラバス項目としてナンバリングを追加したこと、2020年度の修学カルテの実施に向けて趣旨・入力方法などをわかりやすく説明した動画を作成した点が計画以上に達成した内容である。 (年度計画番号8) ・シラバスの組織的なチェック体制を構築し、担当教員へのフィードバック、修正を依頼し、より一層のシラバスの質の向上を図った点が計画以上に達成した内容である。
16	7	・新たに導入したポートフォリオ(修学カルテ)の運用状況を知りたい。 ・具体的には学生の入力率とそれに対する教員のフィードバック実績などを教えてほしい。	・2019年度後学期、2年次生を対象として試行的に実施し、116人のうち63人(54%)が記述した。 ・本実施の目的は2020年度の実施に向けたカルテの項目に関するチェックであり、学生が記述したものに対して、教員がフィードバックを行った実績はないが、当該年度に学生が学んだことや反省点について振り返ることの重要性を確認できた。
21	7. 22. 25.	7. では学務システム、22では教務システム、25では教学情報システムなどの言葉で出てきているが、これらは同じものか、それともヒエラルキーを持った体系的なもので、別々のものか？	・年度計画策定段階では導入予定だったこともあり、用語に表記揺れがあったが、すべて同じものであり、実績では「教学情報システム」の表記で統一している。
18	8	年度計画を見ると、シラバスの作成において予習復習の内容と注意事項など6項目の記入を徹底するとあるが、実績報告にはそれに関する記載がなく、実施の有無が不明である。実施されたかどうかを教えてください。	・6項目の記載はシラバス作成要領に含めており、教務委員会でチェックすることで、100%の記入を達成している。
20	11	年度実績の中に、自己点検委員会の中にIR専門委員会を発足させたところがあるが、どのようなメンバーで、具体的にどのようなデータ分析をして、どのように教員や事務の改善に活かしているのかを教えてください。	IR専門委員会の構成員は、教員5人(教授2人、准教授2人、助教1人)、事務職員2人となっている。 本メンバーで、本学のIR活動について検討し、まずは学内の各部署に点在していた教員・入試・奨学金・研究費・施設・設備・財務に関するデータ等を集約した。IR活動に対する意識を醸成するため、2019年7月24日のFD委員会では、IR専門委員会から「大学のIR活動、組織・教職員の役割の明確化等」について報告を行った。
1	13	志願実績の多い地域への外部委託者とは？	・事務局が少人数体制であるため、高校への十分な説明等に時間を割くことができていない。そのため、特に本学への志願実績の多く日帰りができない地域の高校に対し、退職した高校教員や元大学の職員等、教育や営業経験が豊富な学外の3人に業務を委託している。
5	16	年度計画は「大学入学共通テストに基づいた 2020年度入学試験の入学選抜要項を作成する。」となっているが、実績は年度内に作成できておらず、2020年度に持ち越しされているようであるが、評価を「3」にされた事情を教えてください。	・年度計画の記載内容に誤植があった。 2020年度入学試験となっているところは正しくは2021年度入学試験である。 ・2021年度入学選抜要項で記すべき大学入学共通テストの対応については、2018年度及び2019年度中に情報を収集し、学内議論を経て変更予告を公表したことで、2020年度に作成する入学選抜の基幹部分は提示されたこととなる。よって自己評価は「3」と評価した。

2	20	他大学との連携推進状況はどのようにになっているか？	「知の拠点」整備構想に基づき、教育体制の強化を図るため、以下のとおり他大学との連携等を行っている。 ・平成28年12月に京都工芸繊維大学との教育研究、人材育成及び地域社会への貢献に関する連携協定を締結している。 ・京都工芸繊維大学とは、本学教員の研究室と京都工芸繊維大学の研究室が協働で、福知山市中心市街地の「スキマ」を活用した新たな賑わいづくりに取り組み、新町商店街の空き店舗を活用したアートスタジオ「シンマチサイト」の改修・活用の参画などを行っている。 ・北近畿地域連携会議への参画において、兵庫県立大学や京都工芸繊維大学と連携している。 ・海外との関係では、西南交通大学（中国）と連携協定を締結、それに基づく国際フィールドワーク（授業）を実施した。（年度計画番号31） ・教育研究では、京都府立大学と本学教員が学生の地域連携による交流事業の実施や早稲田大学人間科学部と本学教員の研究室の交流など、教員レベルによる連携に取り組んでいる。 ・連携研究では、総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業において、京都市内の大学との連携のために、京都産業大学教員、龍谷大学研究員にコーディネーターを連携研究員に委嘱し、企画・広報面で連携を行った。
6	20	年度計画の「…既存学部のカリキュラムを改革し、分野の充実と見直しを行い、学修成果の向上を図る」に対し、「学修成果の向上を目指した」に留まっているように読み取れるが、「5」にされた経緯を教えてください。	・年度計画で示した情報学部設置について、「帰納的教育」という本学独自の特徴的なカリキュラムであったこともあり、審査継続となり認可が遅れ、2度の面接審査を受けるなど情報学部設置は困難な取り組みであった。カリキュラムについては、情報学部設置に合わせて、既存の地域経営学部のカリキュラム改革を実施し、学修成果の向上を図った。学修成果の向上は2020年度以降に表れてくることとなる。 ・情報学部の困難を乗り越えての設置認可とその当初の予定より1年早く設置認可を受けたこと、そのことに良い影響を受けての既設の地域経営学部のカリキュラム改革の実施とを総合的に判断して、自己評価を「5」と評価した。
7	27	年度計画の ・キャリアセミナーの開催 月12回程度 ・セミナーへの参加は全体平均で3年生の25%以上 ・4年生に対しては、個別指導を実施する ・2年生後期については、正課科目「キャリアデザイン」と連携し、その中でもキャリア支援実施 ・1年生、2年生前期については、ガイダンスを中心にキャリア支援実施 以上について、実施の内容はどの表記部分に該当するのか教えてください	（キャリアセミナーの開催） ・年度計画の記載誤り。「月12回程度」→「月1～2回程度」 ・8行目から10行目に記載。 （セミナーへの参加） ・8行目から10行目に記載。3年次生へのみの参加者は、年間延べ1,172人で28コマ開催。1コマあたり平均42人参加。3年次生151人のため、平均28%の参加となっている。 （4年次生への個別指導） ・実績に記載なし。キャリアコンサルタントが面接対策・履歴書ES添削・複数内定者の進路決定相談などを個別に実施した。延べ179人の面談を行った。 （2年次生後期のキャリア支援） ・実績に記載なし。キャリアデザインⅠと連携して行い、履修者は28人となった。講座の中で、綾部・福知山の企業見学なども実施した。 （1年次生、2年次生前期のキャリア支援） ・8行目から10行目に記載。1年次生・2年次生向けには、前・後学期初めに学年別ガイダンスを実施。キャリアセミナーは3年次生が中心であるが、早期から就職活動に臨みたい1年次生～2年次生も参加可とした。
19	27	基本的なことであるが、年度計画で「セミナー参加は全体平均で3年生の25%以上を目指す」と数値目標を定めたのであれば、実績（成果）を数値で報告すべきである。実績数値を教えてください。	・3年次生へのみの参加者は、年間延べ1,172人で28コマ開催。1コマあたり平均42人参加。3年次生151人のため、平均28%の参加となっている。
8	28	中期計画の「専任の担当者によるキャリア形成及び就職活動支援を実施する」に対する年度計画を実施した結果なので、実績として、就職活動支援についての部分は実績がいかがであったのか教えてください。	・キャリア面談を通じて、面接対策・ESや履歴書添削を個別に実施した。なお、2019年度から「修学カルテ」というポートフォリオを入れることになった。これも活用しながら、2020年度以降は個別の就職活動支援を実施していきたい。

9	29	行政職等に就いた卒業生による就職講話は実施されたか	・12/7「学内業界・企業研究会」では公務員ブースを設置し、本学卒業生である福知山市職員の就職相談や京都府・綾部市・舞鶴市などの行政職、京都府警察や海上保安庁の方などからも公務員の仕事について紹介いただける機会を設けた。
23	34. 46. 48. 49. 62. 64.	事業の参加人数が記載されているが、これらの参加者のうち、福知山公立大学の学生はどの程度参加しているのか。	(年度計画番号34) ・北近畿創生フューチャーセッション - 第1回 本学学生6人/全体参加者18人 - 第2回 本学学生9人/全体参加者31人 - 第3回 本学学生4人/全体参加者32人 - 第4回 本学学生3人/全体参加者36人 (年度計画番号46・62) ・総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業 - ふるさと再発見ツアー 本学学生0人/全体参加者19人 - 中高生たちとの交流会 本学学生4人/全体46人 - 移住体験ツアー 本学学生0人/全体3人 ・北近畿を熱く語るシンポジウム 本学学生21人/全体140人 (年度計画番号48) ・まちびと起業塾 毎回1人参加とスタッフとして1人参加 ・まちライブラリー 毎回1人～3人の参加 ・まちかどギャラリー WSIに4人の参加 ・まちびとゼミ 毎回10人以上の参加 ・学生・地域協働事業 毎回5人以上の参加 (年度計画番号49) ・まちかどキャンパス事業(宮津市連携5人) ・まちかどキャンパス事業(丹波市20人・朝来市連携5人) (年度計画番号62・64) ・地域研究プロジェクト 0人 ※北近畿創生フューチャーセッション、総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業、北近畿を熱く語るシンポジウムでは、毎回3人～5人程度の学生アルバイトが運営サポートを担った。
17	39	・科研費への応募率が100%、採択率が30%と成果を挙げたが、支援する事務体制の詳細(例えば、支援専従者がいるかなど)を教えてください。	・研究担当職員1人(他の業務も兼務。)のみである。 ・FDフォーラムにおいて科研費採択に向けた説明会を行った。 また、応募分野を選択する際の参考資料として、過去3年間の応募数、採択数及び採択率を記した資料を作成し配布した。
22	40	2016年度～2019年度の総括の中で、受託研究が14件で500万円となっているが、平均すると35万円程度であり、どのような内容の受託で、どこからの受託か？	別添「受託研究実績【2016年度～2019年度】」を参照。
10	40・42	計画以上の実績があるように感じるが、3にされた経緯を教えてください	・年度計画に掲げた目標を上回っているが、継続案件が多いと判断し、自己評価を「3」と評価した。
	57	計画以上の実績があるように感じるが、3にされた経緯を教えてください	・ファカルティ・ディベロップメント(FD)は、月1回程度実施の目標に対して計10回実施し、自己評価を「3」と評価した。
11	48	事業実施に伴い、「運営に関わる市民サポーター育成に努める」「どっこいせ事業を中心に市街地の活性化に取り組む」といった計画にについての成果はいかがであったか	まちライブラリーの事業では、講演会やワークショップ、交流会を計10回開催、繰り返し参加する市民を3人獲得することはできたが、市民サポーターを組織する段階には至っていない。まちびとゼミの事業では、福知山ドッコイセまつり実行委員会の協力を得て開催し、福知山ドッコイセまつりの踊り連に本学学生が参加するなど更なる賑わいづくりに貢献した。
24	52	経営会議のメンバーと役割及び権限を知りたい	・経営会議の構成員は学長、副学長、地域経営学部長、情報学部長、地域経営学科長、医療福祉経営学科長、情報学部長が指名した情報学部の教授1人、事務局長、事務局次長、その他学長が認めた者である。 ・経営会議は、大学の経営に関する重要な事項や理事会、経営審議会及び教育研究審議会に付議するもののうち重要な事項を審議する。

12	56	年度計画と実績の関連性を教えて頂きたい	年度計画の転記誤り。年度計画の内容を以下の通り訂正する。 ⇒理事会、経営審議会、教育研究審議会において、外部理事、外部委員、監事の意見等を運営会議での検討を通して理事長の主導の下で法人経営、大学運営に反映する。併せて、アドバイザリー・コミッティでの意見についても、積極的に取り入れる。 なお、外部意見を踏まえて、総合特区を持つ兵庫県養父市や専門職大学の設置を予定している兵庫県豊岡市との包括連携協定の締結等を検討していきたいと考えている。
3	61	ニュースレターについては、年度計画どおりの発刊ができていないが、次年度の計画はどのようなになっているか？	・ニュースレターは、2018年度からスタートし、2019年度までの2か年間発行し、各種イベント時に配布してきた。ただし、2019年度からは年度途中で総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業の事務局を旧北近畿地域連携センターが担うこととなり、全体の事務量が想定を超えたことから発行を見送り、Kita-re(キターレ)ホームページやSNSなどでの広報に絞り、広報活動を行ってきた。2020年度からは組織が変わったことから、新しい体制で情報のあり方を検討中である(基本的にはホームページとSNSでの発信が中心となる見込み)。
13	62	市民ニーズの把握の実績はいかがであったか	・市民ニーズの把握については、原則として全事業で実施するようにしており、委員会での内部共有に努め、次回企画等に随時活用している。また、報告書にも掲載し、外部にも情報公開しているところ。
14	近況報告 P. 7	・2019年度の退学者9名について、旧大学(成美大学)の学生かそれとも新大学のものか内訳を教えてください。 ・2018年度の退学者1名から9名と急増しているが、その主たる理由はなぜか？ ・休学者も2年連続2桁の人数であるが、その主たる理由は何か？	(2019年度退学者の内訳) ・旧大学1人、新大学8人となっている。 (退学者) ・学生異動の数値に誤りがあった。2018年度は7人、2019年度は9人で、在籍数に対する退学率は、両年度とも1.9%となっている。 ・2019年度退学者の主な理由 進路変更(他大学等入学・就職)、修学意欲の低下、経済困窮 (休学者) ・学生異動の数値に誤りがあった。2018年度は8人、2019年度は10人で、在籍数に対する休学率は、2018年度2.2%、2019年度2.1%でほぼ横ばいとなっている。 ・2019年度主な休学理由 就職活動、進路再考、経済困窮、修学意欲の低下、心神耗弱